

男女がともに 輝くために

共に輝くみほの会
-美浦村女性行政推進協議会-

問合せ 企画財政課
☎029-885-0340(内)208

荒井 美幸

10月27日レイクエコーにて、男女共同参画ネットワーク講座・公開講演会 演出家 宮本亜門氏による「違うから面白い、違わないから素晴らしい」を聞いてきました。

講演の内容は、宮本亜門さんの生い立ちから現在までを話すものでした。

東京新橋演舞場の向かいで喫茶店を営む家庭で生まれ育ち、お客さんとして来る舞台役者さんたちを、母親が人生相談相手となったり、一番の応援者となって裏で支える姿を見て育つ。

彼が幼稚園の時に踊りに興味を持ち日本舞踊を習う。顔におしろいがついている所を

見た友達に笑われてしまい、踊りを習っているという事を話したくなくなってしまう。中学生時代は空間演出へ興味をもつようになった。

自分が、好きだ・楽しいと思う事を人に話すと笑われてしまう。でも人が好むものには自分は興味を持ってない。そんな自分が嫌になり、高校時代は、窓もない暗い部屋に11カ月半引きこもる事で心を閉ざす事になる。

そんな引きこもりの部屋には唯一レコードがあり、ミュージカルのレコードを何回も聞いていた。引きこもりから抜け出す時、精神科に通う事になる。学校へ行かなくてはいけないという概念が、カウンセラーの「行かなくていいんだよ!」の言葉で心が晴れ、気持ちの変化がおきる。

それならちよつと行ってみようとの思いで、おそろおその学校へ行ってみると、自分がいよつといまいと友達は何とも思っておらず、人は各自自分の事で精一杯生きているのだと分かる。

幼い頃から舞台役者を見て芽生えたミュージカルへの道へと進み、自分が一番輝ける

場所であるニューヨークのブロードウェイへと渡り、誰が何を言おうと自分の人生をつらぬいた姿が今の宮本亜門である。

人の見えない努力を支える仕事をしているからこそ、講演会の壇上に立つ手話通訳さんに気配りをする姿がとても素敵で印象的でした。

還暦と思わせないほど魅力とパワーある宮本亜門氏の講演は、もつともつと聞いていたい程あつという間でした。

私も子育ての中で他の子と比べてしまう事もありますが、違っていて良いのだという内容で心が楽になりました。

男女がともに輝くためにのテーマ同様、人とは違う、で悩むのではなく、どうプラスに変え、どう乗り越えるか。

そして「この瞬間を生きているのだ」と思う人生を送る事が大事。人はこうあるべき、女性は(男性は)こうあるべき!ではなく、そんな垣根がもつともつとなくなり、男女が輝ける社会になることを願っています。



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社題「常・陸」一字以上詠み込み有季無季随意

見ても見ぬ振り聞こえぬ振りも常に母御の知恵袋
辛さ悲しさ笑顔の陰に常に隠して喜寿の年齢
常に頑固な亡き義父植えたみかん味わう通夜の席
常に自信の俚謡ではあるが他人の評価はままならぬ
常に気配り夫をたてて妻を貫く母の意地
幼なごころに勝てぬと悟る常に背筋の伸びた母
食事うまいは元気な証拠ちよつと工夫の常備菜
翼広げて大陸渡り霞浦で冬越す鳥の群れ
常に見せない涙で爺も孫の宴にお立ち酒
秋の常盤路りんごにもみじ浮かぶ白滝軍鶏の味
森の妖精ヒ口力の歌に陸平は仮装で盛り上がる
老いの日常連れ添う妻と肩を並べて朝散歩
常に気配り友には感謝季節折々届く品
除夜の鐘聞くテレビの前で常陸蕎麦食べ送る年
今日もには焼酎ごくりに常にわびしさまぎらわす
常陸名物金砂郷蕎麦は腰が強く味がよく
古希を迎えて愛情増して常に気遣う三食膳
五輪目指して若手の選手常時大会挑む日々
常に一緒笑って泣いてどこへ行くのも二人して

十二月の俳句(題 当季雑詠)

諸堀りや色とりどりの児の帽子
晩秋の野草にありし風の音
廃屋や燃ゆる山茶花際立ちて
飛ぶことも忘れたるかや冬の蠅
葱白し畑の端で売られけり
玉子酒飲みて余生は恙なし
極月やバトンタッチの干支色紙
大池を囲む枯れ木の無音かな
不器用に生きて平穏冬すみれ
初霜の降りる気配や肩枕
冬ざるる遠く紫峰の澄みにけり

- 篠原美千代
- 長谷川悦子
- 沼寄朋香
- 高橋一步
- 関根秀子
- 山崎笑子
- 塚本夏雲
- 石戸律華
- 飯塚筑風
- 増尾青蓮
- 門脇悠美
- 伊藤葉子
- 小池きよし
- 田島草実
- 山崎泰弘
- 武田かずお
- 小蘭江久美
- 上野八千代
- 木村幸子
- (五十音順)
- 青野安佐子
- 石毛恵美子
- 海道民子
- 木澤はしめ
- 高柳幸子
- 田島早苗
- 中島輝子
- 長田敏笑
- 松葉よしの
- 松本秀子
- 宮崎きみ枝